笠間治雄様(元検事総長)ご講演感想文　Ｌ河野信之

平成２７年２月４日(水)　東京白門ライオンズクラブ　２月度第一例会にて

元検事総長、どういう人なのだろう？どんな仕事をしているのだろう？どのような価値観を持っているのだろう？ゴルフなんかするのだろうか？お目に掛れることをとても楽しみにしていた。

検事総長、東大もしくは京大卒でないとなれないポスト。私大出身では中央大学のみ。戦後では初めてとのこと。同じ中大卒ではあるが、頭の中身は私と相当違っていると思わざるを得ない。

１８時、例会前の理事会が終わり、例会場に行くと水津会長の隣に小柄で細身の方がいらっしゃる。「え？この方が？」、強面の方をイメージしていたので驚いた。ゴルフはしそうもないが、何か普通にお話が出来そうな方で安心した。

水津会長が笠間様のご紹介をし、３０分程のご講演にしてくださいとお願いすると、笠間様、「長い講演だと皆様の食事の時間にご迷惑がかかるので短めにお話いたします。」(そうだ、私と同じ考えをお持ちではないか、いいぞ)、失礼。

東大、京大卒でないとなれないお役職に着かれた、何故だろう？と思っていたら、笠間様はすぐ説明してくれた。「私は、平時の検事総長ではないのです。厚労省がらみの障害者郵便料金不正使用事件というのがあり、この事件を発端として、大阪地検特捜部の担当検事が、証拠品を改ざんしたとして起訴されるという異例の事件が起こってしまったのです。私はこの事件の後始末をせよと、野球で言えばノーアウト満塁でリリーフに立たされたようなもの。ストライクが入らないと大変な思いをするところでしたが、何とかストライクも入り無事に降板することが出来ました。」知っている。私もその事件はまだ覚えている。確か、当時の検事総長が引責辞任をしたと記憶しているが、この事件を池上彰ふうにいうと「ああ、そうだったのか！」ということである。笠間様、細身のお体で、難役をお引き受けすること、さぞかし悩まれたのではないでしょうか？ご自身でお身内の改革をする、これは民間企業においてもとても大変だということを、笠間様ご自身が民間企業の監査役というお立場からご講演中に自らお話して下さいました。間違いなくお引き受けなされた難役は平時の検事総長のなさる仕事よりも何倍も難しかったと思います。何せノーアウト満塁なのですから。ところで、霞が関という所はこういう所なのか、役人はやはり狡いと思いました(笠間様ゴメンナサイ)。穿った見方で申し訳ありませんが、救援投手を私大のＯＢに任せれば、仮に救援に失敗したとしても、所詮、私大出身の検事総長、リリーフは無理だったのだ。ということで、笠間様がボロボロになるだ

けで、国立大学の面子は保たれ、大多数の官僚が傷つくことはありません。そうでしょう！このようなプレシャーを間違いなく背負われて、敢えて火中の栗を見事に拾ってくれた笠間様は素晴らしいと思う。中大と言わず、オール私大の誇りではないでしょうか。

日本の刑法の構成要件には主観的な要素が多いというお話はとても興味深く聞かせて頂いた。「収賄罪」、ご担当なされたリクルート事件でＮＴＴの方の取り調べをご担当なされたとお聞きしましたが、真藤恒さんの事だと思います。彼は、土光敏夫さんのお弟子さんと伺っており、あの清廉な土光さんのお弟子さんがまさか本当に賄賂をもらったのだろうかと、当時は信じられませんでした。ご本人が拘置所内で「土光さんが生きていたら俺は破門だな。」と言われたそうです。このお話はもっと聞かせて頂きたいのですが、笠間様がご講演の最後に「再審無罪のお話はこの次にいたしましょう。」と仰って下さいましたので、続きをまた聞かせて頂けると信じて期待しております。宜しくお願い致します。

終り